

## 審議会等の会議結果報告

1. 会 議 名	第 18 回 松阪市政推進会議
2. 開 催 日 時	令和 2 年 1 月 31 日（金）午後 1 時～午後 3 時
3. 開 催 場 所	松阪市役所 議会棟 第 3・4 委員会室
4. 出 席 者 氏 名	出席委員：村林守委員、梅村光久委員、岡山慶子委員、酒井由美委員、高島信彦委員、中川昇委員、西岡裕子委員、平岡直人委員、松浦信男委員、村田吉優委員、米山哲司委員 欠席委員：佐藤祐司委員、吉田悦之委員、三井嬉子委員、渡邊幸香委員 事 務 局：竹上市長、山路副市長、家城企画振興部長、藤木経営企画課長、山路政策経営係長
5. 公開及び非公開	公開
6. 傍 聴 者 数	1 人（内、報道関係 1 社）
7. 担 当	松阪市企画振興部 経営企画課 TEL 0598-53-4319 FAX 0598-22-1377 e-mail kei.div@city.matsusaka.mie.jp

・ 事項、議事録は別紙のとおり

## 第 18 回 松阪市政推進会議 議事録

1. 日 時 令和 2 年 1 月 31 日 (金) 午後 1 時～午後 3 時
  2. 場 所 松阪市役所 議会棟 第 3・4 委員会室
  3. 出席者 村林守委員、梅村光久委員、岡山慶子委員、酒井由美委員、高島信彦委員、中川昇委員、西岡裕子委員、平岡直人委員、松浦信男委員、村田吉優委員、米山哲司委員
- ※欠席者 佐藤祐司委員、吉田悦之委員、三井嬉子委員、渡邊幸香委員

〔事務局〕竹上市長、山路副市長、家城企画振興部長、藤木企画振興部経営企画課長、山路企画振興部経営企画課政策経営係長

### 1 市長あいさつ

あらためまして、皆さんこんにちは。今回は再開後の初回ということで、今後ともよろしく願いいたします。

今回の議題は、令和の時代に行政が取り組むべき課題ということで、年明けに二つの新聞のコラムに驚きました。そういう時代だと改めて感じたことがあります。それは、松阪市でも成人式に 1,400 人から 1,500 人の若者が集っていただきました。今年成人を迎える方は 2000 年生まれで、4 歳でフェイスブック、5 歳で YouTube、6 歳でツイッター、7 歳で iPhone ができ、スマホサービスは物心ついた時には全部あった。これだけそろっていたら、この世代の人たちは選挙に行かないなと強く思いました。選挙は政治活動であり、政治と生活がほど遠いところにある。昔は近かった。政治は生活を良くするためにある活動という意味あいがあった。どうも違う。若い人が投票に行かないのも当たり前だと感じた。東京に行って電車に乗ると、みんなスマホやタブレットをしているのが日常で、人と人とのつながりがどうなのか。その翌日、新聞のコラムでひとつのカレーの店舗が新しくもう一店舗出すという記事があった。会員制のカレーハウスで会費さえ払えば何回行っても良い。同じ趣味を持った人と話をするために会員になっている。人と人とのコミュニケーションが新しい形になってきている。そういう店もこれからどんどん増えていこう。時代が変わっていけば、今の若い人と私の生活感覚はかけ離れていくので、その人たちのニーズに答えていけるような形に、行政は変えていかないといけない。どうやって取り入れて、どうやって発信していくか、成人式前後で考えさせられました。

皆様からもヒント等いただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

※松阪市政推進会議規則第 5 条により、会長が会議の進行を行う。

○ 会議の公開・非公開の決定

会長)

改めまして皆さまこんにちは。

昨年の7月以来で今回は第18回になります。今年初めての会議になります。よろしくお願いいたします。人と人とのつながりが希薄になってきているとのことですが、私たちの知恵の限りご意見をいただければと思います。よろしくお願いいたします。

例によって会議の公開・非公開を決定する必要がございますが、議題が令和の時代に行政が取り組むべき課題ということで、非公開になるようなお話は控えて、今回も公開ということでよろしいでしょうか。

(異議なし)

会長)

では、公開で進めさせていただきたいと思います。

## 2 協議事項

### 1) 令和の時代に行政が取り組むべき課題

会長)

それでは、令和の時代に行政が取り組むべき課題についてということで、ご説明をお願いします。

市長)

(市長より資料の説明)

資料1 PDCA サイクル

資料2 指定管理4施設の入館者数、観光協会委託施設売上状況

資料3 松阪市総合運動公園スケートパーク運営状況

松阪市総合アプリ

みえ松阪マラソン 2020 チラシ

会長)

ありがとうございます。それでは、委員の皆さまからご意見をいただきたいと思います。

委員)

市長のあいさつのなかで成人式の話があったが、私が関わっている文部科学省の教育推進のあり方ESDの中で、そういった教育を受けた子の発表を聞いた。中学校、高校で自

分が勉強したことで、究極は自分が外務大臣になり、政治と深く関わらないといけないと目覚めた子がいた。もう一人は地球環境という面で、国や世界を動かすには政治の力が必要だと言った子がいた。持続発展教育により、そういう考えを持つ子どもたちが生まれてくる可能性は大きいかもしれない。

次にマラソンですが、今年は無理かもしれないが、障がいのある人でも参加できる大会が定期的にでもできれば素晴らしい。

もうひとつが予算のことで、皆さんが努力して作っていることを市民が分かり易いように「見える化」をしていくことで、市民の方に理解してもらえるのではないか。

市長)

障がいのある方へは何らかの形で取り組めたらと思う。

会長)

市長は高校生と話すことがあると思うが、政治の話はされるのですか。

市長)

高校生と懇談会をするなかで、学校に願ってやっているので政治的な発言は控えている。

委員)

昨今のニュースを見て、全国の高校生は、極めて入学試験という目の前のことに対して心配をした。そこから政治というものが、自分たちの生活に直結しているという感覚を短時間で醸成されたのではないか。ああいうニュースを見ているなかで、高校生と接していると、多くの高校生が選挙の候補者に対して、消費税や雇用は当然のことながら、環境問題をどう考えているのか、自分たちが大人になってからの課題は、今解決しないと自分たちではなんともし難いと、ここ半年1年で若者の政治に対する意識はずいぶん変わってきていると感じる。

委員)

なぜ市長はツイッターをしないのか。

市長)

フェイスブック、インスタグラムをすると、ツイッターまでできていない。

委員)

フェイスブックをあれだけ頻繁にされているのだから、ツイッターをすると、若者メディアに入っていけるのではないか。

松阪まち歩きは、教育的、学術的なので、限られた2時間のコースではなく、城下町の隅々を歩いて自分で発見するウォーキングのようなものを作ったり、食べ物も入れると21世紀的ではないか。

あと、PDCAを行政に取り入れた成果を広く市民に知らせる会をすると、行政が市民と生きたつながりになるのではないか。見える形の報告会をしてはどうか。市民の意見でどうということが起こり、松阪市がどうフィードバックしたか、結果こういう予算ができたとなれば、各課の気合も入る。

委員)

PDCAのPは行政がプランニングするのか。市民を巻き込んだプランニングをした方が良いのではないか。

市長)

市民アンケートを重視している。特定の課題を取るようにはしており、その方向でプランを作っていく。定点観測的なものも2年に1回とります。市民のニーズとしては、防災・医療の重要度が高い。結果は定点観測的にはそう大きくは変わらない。折々の特定課題は、例えばフルマラソンをやる時は、市民アンケートでやるべきかを聞き、事業実施に踏み切っている。細かな予算編成に、なかなか市民の声を取り入れることは難しい。ただ、各々のセクションでは取り入れており、関係する団体の意見も取り入れている。特に大きなものについては、市民の意向を取ってプランニングしている。

行政の場合、年度途中で評価できないので2年サイクルを常にしていく。中小企業は、社長がやれと言われれば明日からやるが、行政はそうはいかない。議会も通ったうえでしかできないので、チャンスは新年度予算の1回のみ。

PDCAサイクルで、行政はP、Dは一生懸命やるがCは非常に弱いので、評価をきちんとやろうというもの。

委員)

チェックは誰がするのか。

市長)

部長級以上です。チェックの仕方は難しい。

委員)

それだとチェックにならないですね。

会長)

部長級のチェックは自分の部署だけですか。

市長)

客観的な視点で、他部局も考えていけないといけない。  
将来的に外部評価を入れることは考えていけないといけないと思う。

委員)

予算の前に中期計画を立てるのは庁内でやるのか。

市長)

総合計画というのがあって、審議会を立ち上げて行政側がたたき台を作って見てもらう。  
令和2年度に作る。10年後の姿に向かって数値目標を置く。

委員)

庁内で立てて外部有識者を入れ、市長の思いを総合計画のなかの目玉コンセプトとして作られるのか。

市長)

少なくとも現在の総合計画は私の公約の順番でした。今は「継続+進化」と言っている  
ので、基本的には子育てを重くしてあるので、それに基づく案をつくり有識者による審議  
会で承認をいただく。

会長)

重要な事項ですので、我々も意見させていただく機会はいただけるかと。

市長)

近々、市民アンケートを発送する予定です。これが計画の大元を作っていく。すべての  
政策のなかで、どれが重要かも聞きます。

委員)

ボトムアップと市長の思いのバランスは。

市長)

皆さんのニーズを取り入れながら、自分の思いのバランスを取りながらやっていくとい  
う話になります。

委員)

アンケートで重要度などを聞いた場合、防災やご自身の利害とか命にまつわることが高くなるので、将来世代に向けた視点や郷土愛が抜けそう。丁寧にすることが、定住や冒頭のつながりになると思いますので、是非その点も強く焦点をあわせていただきたい。

委員)

市民アンケートは目先のことが出てきそう。

委員)

市民アプリはどのような内容か気になる。子育て世代はまつプリが稼働している。この市民アプリがスマホの松阪市役所みたいな感じで、市役所にこれない人がこれを見て、市役所の動きを感じたり、今何をしているかがわかるように見える化できれば良いと思う。

どこにでもあるアプリではいけないと思う。どこまでカスタマイズできるかはあるが、子育て世代に関する意見を双方向型アプリであれば、意見の吸い上げができる。市長と市民の座談会では、そこに行けない人やフェイス to フェイスではうまく言えない人もいる。いかにそういった人の意見を抽出できるか。双方向を充実させていただきたい。

マラソンについては、マラソンをキーワードにいろいろな人が集おうとしている動きが見えて楽しみ。もう一つのキーワードが、最近ペットを連れてまちを歩いている方を見るので、例えば、ペットマラソンとか、田園地帯で県外から人を呼んでするのも良い。まちを感じてもらうきっかけになるのではないかな。ペットをキーワードにして、面白いイベントができたら良いと思う。

また、スケートパークについては、県外の方の来場者が多いことから、ここにお金を落としてもらう機能を入れ、ペットをキーワードにするなら、ドッグランを入れても良いのではないかな。

市長)

ドッグランは人が集まるようですね。飯高にスメールというホテルがあり、そこをわんわんパラダイスという名前のホテルに変えて、ペットと泊まれる宿をコンセプトにドッグランもしており、たくさん来てくれている。

委員)

令和の時代に行政が取り組むべき課題ということで、地域包括ケアシステムの構築を実行していかないといけない。松阪地区医師会と行政が協力しあって、全国でもこれだけうまくやっているところはないと自負している。

地域包括支援センター、認知症初期集中支援チーム、あるいは医療と介護の連携拠点を医師会に拠点を構えて展開していく仕組みになっている。これをどんどん前に進めていくことが非常に大事なことだと思う。

高齢者の施設から救急搬送されるケースが多くなってきている。人生の最終段階にあつて救急搬送された時に、心肺蘇生を望まないと思いを表明される場合がある。救急隊員は法律上心肺蘇生しないといけない。こういう問題が松阪市でも発生している。東京消防庁での取組で、事前要望書を作成し、本人が元気な間に自分が最終段階でどうしてほしいか、書面を持って意思表示する。本人が持っていれば、書類を見てかかりつけ医に連絡をして確認をすれば、心肺蘇生をしなくて良いという仕組みづくりが東京では実行されている。

いろいろな意見を広く集め、高齢者に限らず、自分のこととして考え、心肺蘇生を望まないとか、物事を判断できる間に、市民の方の意見も取り入れながら仕組みづくりをしていかないといけない。

委員)

QOD (Quality of Death) 、つまり死の質を考えることは、QOL(Quality of Life)、つまり今をより良く生きることにつながる。

そういうことを考えるまちは良いと思う。

委員)

どう死ぬかを議論できれば先進的ですね。

委員)

市民病院のあり方検討委員会から提言があり、市民病院は地域包括ケア病棟をめざすことになり、超急性期、急性期は済生会、中央病院でやるという大きな枠組みが決まった。最後に、市民病院は指定管理者制度で公設民営化でやっていくのが良いのではと提言としてまとめました。

高齢者の施設にいる方は、どこまでの医療を望むのか判断が難しい。役割を分担しながら市民の健康において、多様な対応をしていく必要がある。

委員)

PDCA サイクルでの評価は、市民の満足度を高めるためのいろいろな施策の評価として、取り入れられていると認識しているが、この部分の評価と市民の評価のミスマッチは必ずおこる。どういうふうに最小限にとどめるか。当然施策としてやりたいことがある。コミュニケーションをとり、行政の思い、市民の思いをくみ取ってください。自分たちの地域だけでなく、幅広く全国の施策を見る中で市民への問いかけをして、取捨選択をしてサイクルを回し、市民とのミスマッチを最小限にしてほしい。

委員)



今の中学3年生の数やそういった世代の若者は、20年前は3万人いたのが来年は1万5千人台に落ちてくる。三重県全体でも高校から大学に進学する時一番流出する県です。若者にとって戻って来てもらえるような、魅力的なまちにしていく施策が重要である。

18歳や22歳の若い世代は仕事に対する価値観が変わってきている。出世しないが良い、自分の時間を大切にしたいという考えであれば、松阪にいて、松阪に住むと総所得は少ないけれど、可処分所得が大都市より良いとか、人間らしい生活ができるよというアピールの仕方もできるのではないかな。

委員)

総合計画での市民との関わりは？

市長)

市民の皆さんとの関わりはアンケート調査になります。事業説明会に行くと反対の人しか来ないということがよくあるケース。全市民向けにアンケートをとると、ほとんどの方が賛成で、一部の方が反対している。そのため、個別課題のアンケートをとることが大事なのだと思う。それが評価に繋がっていく。

市民の方に細かい話をしても難しいので、住み良いまちですかと聞き、年々あがっていくというところで見えていかないといけない。行政の外部評価は難しいところで、議会は行政のチェック機関ですが、新たな政策を立案していくのに議会は議決権がありますので、それだけでニーズを取り入れる新たな政策を作ることは難しい。そのため市民アンケートや市長と語る会など、直接語り合う機会を設けて声を聴いていく。

松阪市HPや市役所の案内で自由に意見を書いてもらうところがあるなど、そういったやり方でニーズを吸い上げる。評価をいただくという感じがする。

委員)

市民そっちのけではなく、市民参加型でやってもらいたい。

市長)

かなり大きめの駅西とか、ワークショップ形式でその人たちに基本構想を作ってもらった。70人ぐらいの方が応募していただき、半分ぐらいは毎回出席していただいた。かなり良い基本構想ができた。

市長)

皆さんからご意見をいただく会は、大きなものはやっていきたい。専門性の高いものは難しい。

委員)

松阪を思う熱い人たちが集まるとすごいエネルギーになる。Noと言わない人が集まる。市民が主体となって、ともにつくり上げるまちづくりが理想的。やっぱり、松阪好きだよねというリーダーシップを取っていくお手伝いができればと思う。

委員)

行政が取り組むべき課題ということで、テレビで三重県の横断歩道で一旦停止する率が最下位というのを見て、結構そうだと思った。お年寄りや小さい子ども連れの方がいても、電車で席を譲ることがない。人にやさしい、思いやりがある、譲る気持ちがあるまち、というのが前面的に出ると良いかなと思う。

委員)

アンケートをとって市民ニーズを吸い上げるのは素晴らしいと思うが、市民サービスは山ほどある。財源には限りがある。行政サービスを提供するための財源をどうするのか。ひとつは、産業を振興して活性化させて税源を生む仕組みを作り上げること。もうひとつは無駄遣いをしない、どう良いものを選択していくか。

産業振興の提案はあるが、財源を作り出すという話は出てこない。そこをもう少し検討すべきだと思う。

松阪は豪商のまちというテーマを持っているので、いかに地場産業を活性化させるか。東洋経済で住み良さランキング1位の石川県白山市は、上場企業が9社あり、雇用の確保がされている。優れた教育機関もあり、産業が発展している。結局都会に行かなくても良い。松阪もそういう視点を持ってはどうか。教育の場は津にもあるので、松阪は産業振興に力を入れる。

委員)

最近、企業の財務的価値と非財務的価値という言葉が出てきますが、非財務的価値に学生が焦点をあてるのは、働き甲斐、ワークライフバランス、女性活躍を思う若者の価値観。企業がどうあるか。考え方も価値観も変わってくるなかで、なぜそこで働くのか、なぜボランティアをするのか意図がはっきりしていない。募集する側に問題があって、1日中ごみを拾わされたり、テント貼らされたりすると来年来なくなる。ボランティアも就職も長く続くサスティナブルであって欲しい。ボランティアによるどのような実りがあるのかというオリエンテーションと、終わった後のリフレクション（振り返り）。入口と出口をちゃんとあげれば、学べるまちになる。丁寧に担い手育成をしていかないといけない。自己実現と課題解決がうまくいく、それがスポーツと連動したまちづくりと非常に密接感があると思う。

会長)

そろそろ時間ですが、最後に、PDCA に市民がどう関わるのかというところで、実施計画のパブリックコメントをしてはどうか。それを議会や市民に出して意見をいただくステップを一つ入れて、PDCA サイクルに図示してはどうかと思う。

他にはよろしいでしょうか。

それでは、これで第 18 回を閉めさせていただきたいと思います。

事務局)

ありがとうございました。

では最後に、次回の開催について、ご連絡させていただきます。

次回は、開催日の変更をご連絡させていただきましたとおり、3月30日(月)午後3時から開催させていただきます。

あらためて、ご案内させていただきますので、ご予定をお願いいたします。

以上をもちまして、第 18 回松阪市政推進会議を終了させていただきます。

ありがとうございました。

《午後 3 時 終了》